



会

報

(平成16年 3月号)

東部ニューギニア戦友会

157-0073世田谷区 祐 6-32-5

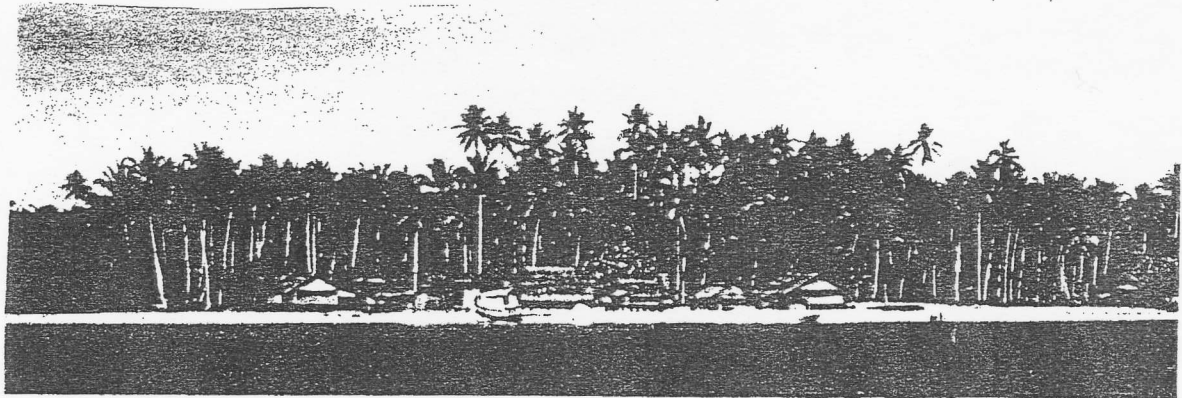
TEL, FAX=03-3416-6504

編集発行人 後藤友作

東部ニューギニア参戦陸海軍関係、遺族を含む全部隊合同

★★慰霊祭は平成17年4月5日★★

終戦六十周年を祈念してニューギニア戦友会主催による
最終的な合同慰霊祭を靖国神社において執り行なうことに
衆議決定しましたので、ご連絡申し上げます。



★もくじ

(敬称略)

- | | | |
|--------------------|------------|----------|
| ★巻頭ご挨拶 | 戦友会々長 | 堀江 正 夫 |
| ★高砂義勇隊関係慰霊祭に参列して | | 堀江戦友会長 |
| ★戦友会の歩み(収骨事業と懐古資料) | 18, AHQ | 後藤友作 |
| ★十五年度遺骨収集事業参加報告 | 239 i | 棚橋幸二 |
| ★遺骨収集事業参加報告 | 建勳 51 部隊遺児 | 酒光幸子 |
| ★遺骨収集事業に参加して | 第3 揚陸隊 遺児 | 巽 恵子 |
| ★遺骨収集団参加報告 | 20師団衛生隊遺児 | 森本浩吉 |
| ★ニューギニア航空、新住所 | | ★好評新刊書案内 |
| ★内外航空巡拝案内 | | |

ご 挨拶

東部ニューギニア戦友会々長

堀江正夫

戦友 及びご遺族の皆様にはその後、如何お過ごしでいらっしゃいますか。

昨年は 桜の時期に、恒例の合同慰霊祭を多くの皆様とご一緒に執り行ことができ、夏を中心に 何人もの皆様に ニューギニア の現地に、慰霊にお出かけ頂き、秋には政府主導の東部 ニューギニア 第十八回目の遺骨収集が行われ、百二十三柱のご英霊を祖国にお迎えする事ができました。

この遺骨収集は、昨年の会報でご報告しましたように、一昨年の現地慰霊旅行の際、ご遺族の酒光幸子さんと加藤ヒデ子さんが、発見された サトノ 地区を中心に行われ、該地区から八十柱を収骨した他、フナコダ 地区等の四十三柱を加えたものです。

この収骨作業には、戦友会を代表して 四十一師団の棚橋さんにご苦勞を煩わし亦、わが遺族会からは、酒光さん、巽さん、森本さんのお三方が参加されました。

私どもが終戦後、ニューギニア の地を離れるに当って一番の心残りは、多くの戦友のご遺骨を持ち帰ることが許されず、その儘にして帰国しなければならなかったことでありました。

あれから半世紀を過ぎ、戦没者十三万名に対し、収骨総数二万柱に届かない実体を感じます時、申し訳なさで一杯で、この上とも頑張らねば という強い思いに駆られておるところであります。

恐らく今年は マリノ街道と言れた地区の、現地調査が行われることと期待していますが、今後一層の収骨への努力を期する次第であります。

隔年行って参りました合同慰霊祭も、来春は行う予定でありますので、是非多くの戦友ご遺族の皆様にお詣り頂きたいと存じますが、その次の平成十九年となりますと皆九十歳前後になりますので、恐らく戦友会が主催する慰霊祭は、来年を最後にせざるを得ない、と思っています。

従って、^{かね} 予てから申し上げておりますように、出来ますればご遺族の皆様に、後をお引き受け頂いて、引き続いて慰霊祭を行って頂けないものか、と、心から念じていますが、それが出来なければ、永代神楽代を募金奉納して、毎年決められた日時に有志が集い、昇殿参拝する以外には無いと思っています。

どうか、戦友、ご遺族の皆様とも共 よくお考え頂き、忌憚のないご意見を承らせて頂ければ幸甚でございます。

以上 ご挨拶を兼ねご報告とお願いを申し上げましたが、皆様の一層のご健勝とご平安お幸せをお祈り申し上げ、併せて ニューギニア への旅行も益々便利になりました今日、今年も沢山の方々が ニューギニア へ現地慰霊において頂きますよう、心からお願い申し上げ私のご挨拶と致します。

大阪護国神社で

高砂義勇隊員の慰霊祭が執行された。

予てから前大戦における、高砂義勇隊の活躍に感銘し、その顕彰慰霊に努めてこられた、曙会々長 門脇朝秀氏が祭主になり、高砂義勇隊員の慰霊祭が去る二月二十九日、大阪護国神社で執り行なわれた。

私もその義挙に感動し、この慰霊祭に参列したが、全国から馳せ参じた曙会々員の有志、大阪日本会議のメンバーに加え、わが東部ニューギニア関係者の中から西宮の 梅 忠重さん（海軍部隊）、横山部隊の柳沢さん、辻本さんたちにも参加して頂き、約百五十名によって厳粛かつ盛大に執り行なわれた。

翌 三月一日は午後、高砂義勇隊に関するシンポジウムが行われ、参加者約七十名。 私も一時間に亘り東部ニューギニアでの、南海支隊の約二百名、第十八軍配属の斉藤義勇隊、大高搜索隊、猛虎挺進隊等五百名、更に柿内部隊（海軍陸戦隊）配属の約五百名の活躍等について報告し、また昭和十八年始めに編成された斉藤義勇隊で、ラム河谷方面の潜入攻撃戦闘中に負傷後送された、小俣中尉（中野学校出身 特種部隊）の報告も行われ、改めて高砂義勇兵達の偉勲の数々を偲んで感謝の誠を捧げ、戦死された隊員の御魂安かれと祈った。

三月三日 鞍張 堀江正夫



巡拝訪日した台湾義勇兵と連族達。

0000003



戦友会の歩み

【遺骨収集事業のみ抽出略記す】

平成16年 1月30日

東部ニューギニア戦友会

事務局 後藤友作
ごとう ゆうさく

文中敬称略

昭和17年、南海支隊の一部と海軍部隊が協同して、東部ニューギニアのラエ及びサラモアに上陸占領し、ナ地区に進出したのが、ニューギニア戦の始まりであった。海軍部隊による東端ラエ攻略失敗後、陸路ポートモレスビー攻略の命を受けた南海支隊は、同年8月ナを発進し、オーインスタン山系を越えて豪軍の抵抗を排除しながら、9月中旬にはポートモレスビーまで40キロにせまるイリバワに到着したのであったが、糧弾の補給が続かなかったことと、ソロモン方面の戦局悪化などのために作戦を変更せざるを得ず、発進の地ナまで撤退しなければならないことになった。

この撤退行動は米豪軍の猛追撃と、食糧の欠乏、病魔と連日のスコールなどで苦難を極め多くの戦没者を出した。

この作戦に参加した主な部隊は、四国編成の144聯隊、広島の41聯隊、独立工兵15聯隊を基幹にして編成された部隊で、総称南海支隊の将兵であった。

米豪軍の反攻作戦はマッカーサー大将を総帥とした反攻軍で、ニューギニアのナ地区には11月中旬進攻するに到ったのであった。ナ地区のわが陸海軍はこれを迎え各地において激戦を展開したのであったが、海空軍の支援により圧倒的に優勢な米豪軍の攻撃を受け各地区において玉碎するに及び、昭和18年1月20日には同地を撤退せざるを得なかった。南海支隊長、堀井少将、後任の小田少将、海軍陸戦隊司令、安田大佐（戦死後二階級特進）など多くの高級指揮官たちが戦死されていることでも激戦の状況が推測される。

わが軍はその後、17年11月第18軍を新設（軍司令官 安達二十三中将）東部ニューギニアの要衝に兵力を増強し戦勢の挽回を計ったが、米豪軍は周到な大軍備と海空軍の支援の下に、要地を飛石的に奪取する作戦を取ってきた。これがため我が軍はナ地区の撤退に始まり、ラエ、フィンシュハーゲン、フィニステル山系の各地において死闘を繰り返したのであるが、遂に米豪軍に攻略されるところとなった。

昭和19年7月、我が軍は残存兵力を結集して、アイタベ東方のトリニューモル川（日本名坂東川）西岸の米豪軍を攻撃した（アイタベ作戦）のであったが米豪軍の逆襲激しく、損害続出するに及び作戦を中止せざるを得なかった。

その後はトリネー南麓の地において、残存全軍が一丸となって死闘を繰り返し、玉碎寸前で終戦を迎えたのであった。

以上の東部ニューギニア戦におけるわが軍の損害は、該地に上陸し参戦した15万に及ぶ将兵の93%に及び、終戦により内地に生還した人員は10,072名と記録されている。

0000004

この間、戦斗による戦死者のほか、進攻 撤退作戦中、亦、輸送船団の壊滅による遭難戦死、標高 4300 呎の峻険山岳の移動なども二回、未踏の ジャングル踏破、ラム、セビック 両大河周辺の大湿地渡渉転進など、加えて補給途絶のため糧食の欠乏、悪性熱帯病等による死没者などで遺体は文字どおり、水つく屍、草むす屍の状態そのまま、収集して持ち帰ることも許されず、戦場に残置するところとなった。

而しながら戦闘の合間には、各部隊において戦友の遺体の一部を火葬に付し、内地送還を準備したもの、野戦病院や部隊ごとに埋葬されたものもあった。

終戦後 ミシ島終結中に戦没しものは、各々墓標を建て埋葬された（後日、収骨派遣された練習船大成丸により、全英霊を発掘し帰還せしめた）。

戦犯容疑者として 安達軍司令官以下 145名を ラバウル に残したまま、昭和21年初頭生存者は全員帰還したのである。

帰 還 船		
第一次＝ 鹿島(20年12月)	第二次＝ 高栄丸(21年1月)	第三次＝ 鹿島(21年1月)
第四次＝ 酒匂(21年1月)	第五次＝ 氷川丸(21年1月)	第六次＝ 鳳翔(21年1月)
(第五次帰還船。氷川丸は改装され観光船として横浜港埠頭に係留されている)		

東部ニューギニア作戦に参加した全部隊 (厚生省、防衛庁戦史室資料より)

部隊名	戦略通称名	参戦人員
第 18 軍司令部と直轄部隊	猛部隊 102 部隊	37,801名
第 20 師団	朝部隊 15 部隊	23,385名
第 41 師団	河部隊 14 部隊	19,960名
第 51 師団	基部隊 16 部隊	28,888名
船舶関係部隊(船舶工兵、揚陸隊)	暁部隊 15 部隊	10,606名
海軍部隊 (陸戦隊、建設隊含む)	32 部隊	約 8,000名
陸軍航空部隊(飛行場隊含む)	34 部隊	14,108名
ブナ方面部隊(主として南海支隊)	26 部隊	14,898名

★1－終戦後生存者として軍が掌握し内地に帰還した人員 10,072名

★2－軍主力復員後、逐次帰還した人員。

①＝ホーランド方面 142名。 ②＝抑留者 563名 ③＝戦犯及び証人 126名

★3－補充要員として海上輸送途中に海没した将兵、病還、転属等は含まない。

★ 高砂義勇兵(一次徴)。 徴用沿岸輸送用漁船団(500隻×2)。 インド 義勇軍。
台湾奉公団。 徴用民間団体(パラ戦)等は含まない。

厚生省においては、運輸省所属の練習船 大成丸で、南東太平洋 旧戦域である
東部 ニューギニア、現パプア、ニューギニア本土北岸一帯を第一回 海外戦没者
遺骨収集事業として収骨作業を実施された。

実施期間 昭和30年 2月 → 4月 65日間。
収骨地域 ブナ、サラモア、ラエ、フィンシュハーヘン、マダン、
ウエワク、ムシュ島、ボイキン、アイタベ、
収骨協力員 大成丸乗組 練習生百五十余名 (以下記載氏名、敬称略)
現地案内員 松崎栄次(18軍司令部 少佐) 今村秀(41師団 少佐) 小畑耕一(20師団 大尉)
収集遺骨数 5、889柱

★収集団員、協力隊員は停泊中の船舶内に宿営し収集に勤めた。

★フィンシュハーヘン、ウエワク、アイタベの地に吉田茂首相揮毫の慰霊碑を建立した。

★アイタベの奥地で10年間、終戦を知らずに生き続けていた4名の戦友が
発見されて、この船で生還した。(当時、報じた新聞切抜資料1)

★在京各部隊の生還戦友有志が出迎えた。

従来、東部 ニューギニア 作戦参加の陸、海、空軍生存者は、各部隊ごとに、或いは合同
して随時慰霊祭を行ってきていたが、43年11月10日、靖国神社における東部 ニューギニア
戦友会の合同慰霊祭時を期して陸、海、空合同の戦友会が組織されその第一回の重要
事業として、遺骨収集事業を取り上げたのであった。

なお、この遺骨収集事業を取り上げ得たのは、当時の厚生省援護局による 第二次
東部 ニューギニア 遺骨収集を、44年度に実施することが既定していたので、これに密接に
協力して現地主要地域に、戦友会で組織する遺骨収集団を派遣し、残留遺骨の収集を
実行するというもので、方針決定に伴い遺骨収集団派遣計画案を策定し行動した。

★ 現地における収集時期を44年秋10月派遣期間＝1ヶ月。派遣人員＝50名とした。

★ 派遣に伴う旅費、滞在費、遺骨収集経費等一切の経費、派遣準備に必要な諸経費、
収集帰国後の事後処理費等は、すべて戦友会員の寄付によるほか広く各地方行政
機関、協力団体、有志等に呼び掛けて絶大な協力を得ることが出来た。

★ 派遣団員の現地行動用、作業衣袴、半長靴、飯盒水筒、蚊帳毛布、作業用器具類
円匙に至まで、陸上自衛隊の好意により借用することが出来た。

また、当時は独立前でもあってスーパー商店など皆無(ウエワクでは華僑の雑貨
の小店が2～3軒見えた程度)であったために、食糧の半分を内地より船積携行
半分は現地調達で賄うよう準備した。

★ 宿泊経費は、10月7日～28日迄の間、各人一泊 3、5ドルの範囲内で民泊、教会など
を按配利用し、現地で収骨作業の行動中は、毎日自炊であった。

★ 道路事情も未整備で、車両の利用はモズビ、ラエ、マダン、ウエワク、という拠点の市内だけで
旧戦域の収骨地域に行く移動は、昔ながらの徒歩行以外に無いので難渋した。

昭和44年度 東部 ニュース 戦友会遺骨収集事業

実施期間 昭和44年10月 4日～11月 2日まで 30日

収集遺骨数 7、566柱

派遣団員（戦友会員） 50名 + 5

収骨地域と団員（敬称略） (①=班長 ②=副班長)

総指揮	団長	田中 兼五郎	猛(18軍司令部)		
ギルワ、 ナ 班	①中橋 広吉 今西 貞茂	南(南海支隊司令部) 南(歩、144聯隊)	②松舎 一之 白川 清広 吉村 幸雄	南(歩、41聯隊) 曉(船工、五聯隊) (高知 新聞)	
マダソ 班	①古川 治 原 繁太郎	朝(歩、78聯隊) 猛(123兵站病院)	楳原 義夫 巴 辰夫	猛(独工、37聯隊) 猛23兵 医)	
ラエ、 サラモア 班	①中村 嶺八 ②大竹 謙次 毒島 薫	基(歩、115聯隊) 基(歩、102聯隊) 基(基、2野病)	②半田 隆盛 古宇田義次 和久 和	基(歩、66聯隊) 基(歩、102聯隊) 基(歩、66聯隊)	
永井 鶴	基(歩115聯隊 遺)	斉藤 平	(茨城新聞)	大島 隆三	(栃木新聞)
フィリッ、 キリ 班	①梶塚喜久雄 田島 正男 福井 正隆 矢野 金吾 桜井 三男	河(歩、238聯隊) 河(歩、238聯隊) 猛(18軍 司) 基(野砲14聯隊) (上毛新聞)	②是永 清 長友 久義 浦辺 弘	基(51師 司) 朝(野砲26聯隊) 基(基、2野病)	
星野和夫				(カンタス航空)	
ハンサ 班	①三田寺午之助 細萱 仙祐	猛(44兵站隊) 基(野砲14聯隊)	中澤 豊喜	基(歩、102聯隊)	
ウエワ 班	①小畑 市郎 細野千代治 増淵 喜市	空 (2気象隊) 基(歩、115聯隊) 基(輜重51聯隊)	②篠田 増雄 平川 清一 福田 稔	基(歩、66聯隊) 基(工兵51聯隊) (下野新聞)	
山南 班	①佐藤 三郎 小林英二郎	河(歩、239聯隊) 河(歩、239聯隊)	②温田 市助 白田 正康	猛(陸勤76中) 基(基、衛生隊)	
ボイキン 班	①平井 和雄 土谷 歳男	朝(20師団 司) 猛(18軍司令部)	②斉藤 孝也 後藤 友作	海 (27特報) 猛 (18軍 司)	
ソナム 班	①藤井 玉一 富岡伊三郎	河(41歩兵団) 猛(90兵站病院)	大塚 邦男 渡辺 亮一	河(歩、238聯隊) 猛 (昭空2中)	
坂東川班	①賀来 敬次 皆藤 正春 板橋 長吉	河(歩、238聯隊) 河(歩、237聯隊) 基(基、1野病)	柴田 義信 石原治太郎 高久 博夫	河(工兵41聯隊) 河(歩、238聯隊) 河(歩、239聯隊)	
指揮班	入沢 清 田中兼五郎	猛(高射砲63) 猛(18軍司令部)	後藤 友作	猛(18軍 司) 兼任	

0000007

昭和48年度 東部ニューギニア戦友会遺骨収集事業

実施期間

昭和48年 9月17日 ~ 10月19日。

収集遺骨数

1、631柱

派遣団員（戦友会員のみ記載）

40名。

(敬称略)	戦友会団長	堀江 正夫	猛(18軍司令部)	
1班 = フナ。 ギルワ。 ラビ 地区。	岡村 千年 津野勉次郎 孫田 長治	南(144聯隊) 基(51師団 経) 海軍 (82警)	鵜飼 義信 辻本 喜次	暁(船15聯隊) 南(独 I15聯隊) 海軍 (82警)
2班 = サラワケット。 カイアビット。 地区。	岡本 隆久 亀田 英二 伊達 繁	基(51師団 司令部) 基(51師団 通信) 海軍 佐五特	篠田 増雄 佐藤秋三郎 和田 喜一	基(歩 66聯隊) 河(歩 238聯隊) 海軍 (82警)
3班 = シオ。 ガリ。キアリ。 地区	福井 正隆 来見 良雄 矢野 金吾	朝(野砲 26聯隊) 朝(歩 79聯隊) 基(野砲 14聯隊)	水町 輝 岩永 久男 村山 満夫	朝(歩 79聯隊) 朝(歩 80聯隊) 猛(27 貨物庫)
4班 = ミンデリ。 アッサ。ヨゴヨガ	斉藤 顕 鈴木 良雄	朝(歩 78聯隊) 猛(独I33聯隊)	坂本 逸郎	朝(20師団 重砲聯隊)
5班 = セビック。 チンブンケ 地区。	大竹 謙次 松永 正治 小畑 市郎	基(歩 102聯隊) 空(68聯隊) 空(12気象隊)	天野善三郎 川野亀治郎	空(63聯隊) 空(68聯隊)
6班 = ウエワ 南地区	生井 徳一 吉田 哲夫 桑原 馨	猛(44 兵站地区隊) 猛(44 野戦道路隊) 猛(117 兵站病院)	下田 公安 柿山 健	猛(自動車39隊) 猛(野高砲 62隊)
7班 = ポイキン。ガガ。 カイリル。ムシ 島。	後藤 友作 小野沢政夫	猛(18軍 司令部) 朝(20師団 衛生隊)	須貝 謹二 高野 修作	猛(電信 3聯隊) 海(31防空隊)
8班 = マリソ。 アロヘミ。 ブー 地区	中村 福一 高久 博夫 横室 圭治	河(歩 237聯隊) 河(歩 239聯隊) 河(山砲 41聯隊)	平田 弘 竹節 梅蔵	河(重砲 41聯隊) 河(歩 239聯隊)

★地域開発、道路網整備などの進捗状態は、44年度の遺骨収集時と同様、大差ない状態であった。例えば、移動中スコールに会えば道中の小流れも氾濫して立往生となる。ウエワ-ポイキン道は不通、車両はブーまで、以西は原住民の通る獣道をテクるのである。民宿、自炊、これも前回同様(空き家を有料で借り上げて自炊生活)であった。限られた期日内で一体でも多く収集するために、スコール来襲時が休息時で、次の収集地に移動する日は休日に振替え、現地の収骨作業期間中は全員休日返上であった。

★堀江団長一行が日程強行、セビック渡河中にガ-転覆の危機にあい、案内原地民の救助で事無きを得たのも、この時であった。(拵口解除 健)。

昭和49年度 東部ニューギニア遺骨収集事業

豪北(西ニューギニア)方面収骨団。 別班としてホーランジャ地域。

実施期間 昭和49年10月～11月

収集ご遺骨数 (ホーランジャ地区) 540柱

18軍関係部隊 派遣戦友団員 3名

花輪 久夫 空(22飛龍大隊)、 太田 勝三 海軍部。 五賀 悟義 空(208戦隊)

★ 団長 柏井秋久(大臣官房参事官)以下65名(うち東部ニューギニア関係 3名)。

★ 収骨総数 3,680 柱(内ホーランジャ地区(現ジャヤプラ)540柱であった)

昭和56年度 東部ニューギニア遺骨収集事業

収集事業実施地域 ブナ。ギルワ。ラエ。地区。

実施期間 昭和56年 8月～ 9月

収集ご遺骨数 107柱

派遣戦友団員 10名

岡野 宗五郎	基(歩 102戦隊)	吉成 真一郎	基(歩 102戦隊)
前垣 寿三	南(歩 41戦隊)	野上 実	南(歩 41戦隊)
石田 一二三	南(歩 41戦隊)	児玉 簾	南(歩 41戦隊)
高木 実美	南(歩 41戦隊)	川本 秀雄	南(歩 41戦隊)
西本 秋穂	南(歩 41戦隊)	師岡 寛	南(歩 41戦隊)

★厚生省職員 小竹団長以下25名 ★他にソロモン諸島の調査団22名別班で同行した。

昭和60年度 東部 ニューギニア 遺骨収集事業

収集事業実施地域 ウエワク周辺、セビック河岸、山南一帯トウナツ、ピリンガ、マブリック西方。

海岸地区、ソナム、マルジツ、マリソ西方全域。 フリス、タラワイ両島調査。

実施期間 昭和60年 9月～10月

派遣人員 小竹団長以下 36名(うち戦友会員15名)、

収集ご遺骨数 1,287柱

戦友派遣団員

田中 兼五郎	猛(18軍司令部)	富岡 伊三郎	猛(90 兵站病院)
千賀 照二	暁(船工 9戦隊)	森 正樹	猛(軍通信戦隊)
浅野 一夫	河(山砲 41戦隊)	仲村 進	空(6 航空隊)
植松 保雄	朝(歩、78戦隊)	直井 源助	猛(44兵站隊)
小林 久光	猛(憲兵隊)	信沢 益次	基(51師歩兵団)
佐藤 松次郎	空(47 飛龍大隊)	平川 義夫	空(63 戦隊)

棚橋 勲 空(21 飛龍大隊) 本田 勝見 空(68 戦隊) 高取 惣次 海(幕内部隊) 、

昭和63年度 東部ニューギニア 遺骨収集事業

実施地域 サラワケット地域 (ワヘン収骨団、別班として)。
実施期間 昭和63年10月
派遣人員 厚生省 石田班長以下 5名 (うち戦友 2名)
収集遺骨数 66柱

坂口 悟郎 基(歩102聯隊) 宇佐美 晃 基(51師団通信)

平成元年度 東部ニューギニア 遺骨収集事業

実施地域 サラワケット、ピエツ、ウエツ、ミンダガン、マリンガ、リナム、バウブ、ワリス、タラワイ 兩島
収集期間 平成元年 7月 8日～ 8月 3日
派遣人員 厚生省鈴木団長以下 28名、(うち戦友6名)。
収集遺骨数 158柱
戦友派遣団員

後藤 友作 猛(18軍司令部) 犬塚 剛士 猛(野高砲50大隊)
会川 利一 猛(独立兵36聯隊) 宇佐美 晃 基(51師団通信)
森脇 清治 基(51師団102聯隊) 園田 定 朝(歩79聯隊)。

平成2年度 東部ニューギニア 遺骨収集事業

収集地域 サラワケット、ボホンデッタ、ワーシュ、ココダ、エホギ、イオリバイヤ。
収集期間 平成2年 7月 2日～ 7月31日
派遣人員 厚生省鈴木団長以下 17名、(うち戦友4名)。
収集遺骨数 72柱
戦友派遣団員

会川 利一 猛(独立兵36聯隊) 山本 健一 猛(27貨物庫)
岩田 龍作 基(51師団野高砲) 西村 幸吉 南(歩144聯隊)

ニューギニア航空 日本支社 TEL: 03-5216-3555 FAX: 03-5216-3556

〒102-0074 千代田区九段南 1-6-17 千代田会館 6階 (4月5日現在)

国際航空旅行サービス株式会社 慰霊巡拝、学術研究、視察専門、創業30年
(国土交通大臣登録旅行業第1種 569号/社団法人、日本旅行業協会正会員)

〒104-0061 中央区銀座 7-17-11 (銀座大雄ビル 4階)

TEL: 03-3545-4611/FAX: 03-3545-4614. HTTP://WWW.KOKUSAIKOKU.CO.JP

0000010

平成3年度 東部ニューギニア 遺骨収集事業

収集地域 ココダ地区、サラワケット、ガリ転進路、ウエワ地区、
 収集期間 平成3年10月21日 ～ 11月19日。
 派遣人員 厚生省飯島団長以下 19名 (うち戦友10名)
 収集遺骨数 125柱

戦友派遣団員

今西 貞茂	南(歩、144聯隊)	山崎 幸温	南(歩、144聯隊)
和田 清	南(歩、144聯隊)	大野 大	南(歩、144聯隊)
福家 隆	朝(歩、79聯隊)	鬼頭 博	河(歩、238聯隊)
宇佐美 晃	基(51師団通信隊)	梅 忠重	海(海軍部隊)
中野 清香	猛(独立工兵37聯隊)	梢原 義夫	猛(独立工兵37聯隊)

平成4年度 東部ニューギニア 遺骨収集事業

収集地域 サラワケット地区。ガリ転進路。ココダ地区
 収集期間 平成4年9月28日 ～ 10月29日。
 派遣人員 厚生省山岸団長以下 16名 (うち戦友5名)
 収集遺骨数 89柱

戦友派遣団員

岡本 隆久	基(51師団司令部)	亀田 英二	基(51師団通信隊)
伊藤 茂夫	猛(機甲隊24隊)	半田 準一	河(歩、237聯隊)
今西 貞茂	南(歩、144聯隊)		

平成7年度 東部ニューギニア 遺骨収集事業

収集地域 ギルワ野戦病院跡。シアム地区。ウエワ以西海岸地区。山南地区。
 収集期間 平成7年10月12日 ～ 11月2日。
 派遣人員 厚生省黒川団長以下 26名 (うち戦友7名)
 収集遺骨数 132柱

戦友派遣団員

棚橋 幸二	河(歩、239聯隊)	宇佐美 晃	基(51師団通信隊)
梢原 義夫	猛(独立工兵37聯隊)	岩谷 寿春	空(24聯隊)
加瀬 茂	猛(軍通信隊)	園田 定	朝(歩、79聯隊)
		大野 大	南(歩、144聯隊)

新刊書案内 尾川正二著 ◆(帝国陸軍の教育と機構) 新風舎 刊
 著者は20師団79聯隊所属出身 ◆(戦争、虚構と真実) 光人社 刊
 ニューギニア戦場生き残り 第1回大宅壮一ノンフィクション賞受賞作家 戦記著書多数ある

平成10年度 東部ニューギニア遺骨収集事業

収集期間 平成10年 2月 厚生省職員、外 引取り受領のみ、

収集ご遺骨数 75柱。

戦友会員は参加せず。

平成12年度 東部ニューギニア遺骨収集事業

収集地域 ガラ、ガラ 地区。モロタ(カブ県)。ボヤ。 ウエワ 地区。

収集期間 平成12年10月31日 ~ 11月17日

派遣人員 厚生省 神山団長以下 17名 (うち戦友 5名)

収集ご遺骨数 89柱

戦友派遣団員

今西 貞茂 南(歩,144縣) 棚橋 幸二 河(歩,239縣)

山崎 幸温 南(歩,144縣) 岩谷 寿春 空(兼行 24縣)

宇佐美 晃 基(51縣 龍)。

平成12年度 東部ニューギニア遺骨収集事業

収集地域 ボイキン川、兵站病院跡地周辺

収集期間 平成13年 1月21日 ~ 2月 5日

派遣人員 厚生労働省 神山団長以下 9名 (うち戦友 2名)

収集ご遺骨数 80柱。

戦友派遣団員

梅 忠重 海(海軍 龍) 園田 定 朝(歩,79縣)

平成13年度 東部ニューギニア遺骨収集事業

収集期間 平成14年 1月 5日 ~ 1月17日の間 ポボンデッタ地区、

派遣人員 厚生労働省職員以下6名、引取任務。

収集ご遺骨数 12柱

戦友会員は参加せず。

平成15年度 東部ニューギニア遺骨収集事業

収集期間 平成15年10月21日 ~ 11月 7日の間。ボイキン地区。

派遣人員 厚生労働省小澤団長以下14名(戦友 1名)。

収集ご遺骨数 123柱

戦友派遣団員 棚橋 幸二 河(歩,239縣)

平成15年度 東部 ニューギニア

戦没者遺骨収集事業報告

41師団(前編) 第 239 聯隊

棚 橋 幸 二



実施時期 平成15年10月21日 ～ 11月 7日 18日間。
収骨派遣団 厚生労働省 小澤一夫団長 外 3 名
日本遺族会 6 名 (内女性 2 名)
東部ニューギニア戦友会 1 名
J・Y・M・A (旧学生収骨協力団) 3 名 計 14 名
第1班編成 厚労省団長ほか 1 名、 遺族会 6 名、
戦友会 1 名、 J・Y・M・A 3 名 計 12 名
実施地域 ボイキン地域。 インボー村。 クラン地区。
第2班編成 厚労省 青木団員 ほか1名 計 2 名
実施地域 サナナンダ、 ココダ地区。

収集地区と収骨数

1 班一。 A 地 19 柱。 B 地 30 柱。 C 地 25 柱。 その他 9 柱。 計 83 柱

2 班一。 サナナンダ 25 柱。 キルバ 3 柱。 マラ 1 柱。 イラバ 1 柱。

ホリデイ 1 柱。 サリ 9 柱。 計 40 柱

収骨総数 123 柱

行動概況

★10月22日－11:00 ニューギニア 大使館に全員表敬訪問す。

山下勝男 駐ニ大使より訓示と労いの言葉を頂戴する。

大石書記官より、今次の遺骨収集事業に関する全般の説明あり、打合せ。

★10月22日－14:00 厚労省職員 4 名、参加団体代表各 1 名、計 7 名は、パプア ニューギニア
国立博物館に表敬訪問。館長 MR. SOTOI, WAREPO EOE と打合せ。

★10月23日－ 第1班は ウエワ へ、第2班は ココダ に向って出発す。

★10月24日－9:30 厚労省職員 2 名、参加団体代表各 1 名、通訳 2 名、計 9 名は、
東 セビカ 州政府機関を表敬訪問し州知事代理 MR. BENJAMIN WARAKAI 氏打合せ。

★10月25日－8:30 宿舍出発(前編) ウエワ から アイトバ 道が車で約 1 時間、間道は 5 分で車
進入できず下車、徒歩で 1 時間 20 分ほど、目的地 インボー村 クラン地区 の農園に

0000013

到着。農園主 Mr, Peter Sairere より現地の説明を受け、現地作業員26名と共に分散して発掘作業開始。(インボー村の村民女性も含めて総で草刈りして発掘作業の手助けしてくれました) 私の割当て場所を現地人と掘り始め20cm位で頭骨が見え、想うより浅く60cm位掘削で全体一体分出土した。遺体は人的に埋められた様子は無く、60年間自然の俤に堆積された様だ。遺体の身分を示す認識票、印鑑、氏名の刻まれた万年筆等は出土しなかつた。1m ~ 1.5 m 位下は白粘土質でした。 今日の収容遺体は 6 体。

★10月26日-8時出発。今日は日曜日、原地の人々は教会に日曜礼拝参加の為手伝いの人達不在、我々のみにて掘削作業を行う。北側台地にて、人的に埋葬されたい箇所 6ヶ所発掘。内1体は頭の下に石の枕を置いた状態の遺体が在った由。午後、教会から帰った任意の手伝いの人 10名来る。 今日の収容遺体は 9 体。

★10月27日-8時出発。本日も一昨日、昨日に引続き同じ農園台地の遺体発掘作業。私の割当て場所、10体位発掘出来ると農園主のペーターの言でしたが、20数ヶ所を発掘作業を行うも3日間で3体収容出来たのみ、農園主のペーター頭を抱えて居た。不在中だったインボー村の村長(農園主ペーターのお父さん)Peter Wak氏来たり、此処は大雨の時山側から洪水が、埋葬地を流してしまい遺体は川に流失してしまった場所で幾ら掘つても遺体は無い由。村長の話の中で、ボイキン川の上流へ5分位行つた対岸の急斜面を少し登つた所に平な台地が2ヶ所在るとのこと、明日其の場所を案内を依頼する。尚、村長の話に依れば、1944. 45年の2年の間、海軍の人20名位駐在して居た由、遺体の人的埋葬が判明した。団長に報告。 3日間 発掘作業の農園の名称を C地 とする。 今日の収容遺体は 8 体。

★10月28日- 朝食時、団長より本日は1日中調査の為、私一人ホテルに残留して、3日間に収骨した23体の遺骨の泥を落として乾燥、焼却時水分少なくする様にして欲しい旨の指示有り、本隊8時出発を見送り泥落としを始めたが、川畑支配人来たり泥落として乾燥しても、夜間又湿気を呼んで又元に戻つてしまうので水洗した方が良いとのアドバイス有り、ホテルの女性と共に水洗して、天日乾燥した。本隊 15時頃帰り、遺体の在りそうな場所、2ヶ所村長が案内してくれた由。

◎ココダ方面遺骨収集作業の、第2班の2名、収骨 40体と共に、18時20分到着。 今日の収容遺体 本隊 1 体。 ココダ方面収骨は40 体。

★10月29日- 朝食時、団長より私に本日と明日の2日間、1. 2. 班の収骨体を全部焼骨する。厚労省の青木、近藤の両名は焼骨の経験が無いので指導して欲しい、遺族会の女性2名も残留して手伝いする由。川畑氏と焼骨用薪の寸法の件打合せ、検体骨が多い為、薪の長さを全部50cmとし、骨の量によつて適当に加減することにする。左焼却台32井桁に遺体35体を置き、焼骨する。焼骨後番号袋間違い無き様確認し収納、霊安室に安置。本隊17時30分帰着。C地よりボイキン川上流7~8分左側の台地にて遺体発掘作業して収骨、遺体大木の廻りに多く在るらしい。自然の状態

で出土。海岸から山中への転進路の一時休息地か、行倒れの戦友達が哀れた。
本日の作業台地の名称を B地 とする。 今日の収容遺体は 12 体。

★10月30日－本隊8時出発。ウエワク 焼骨組 6名（遺族会の南氏突然の参加）。

左焼却台32井桁組み、右焼却台（小）に11井桁組み、各井桁に遺体を置き、焼骨する。焼骨後、番号袋間違い無き様確認して収納、霊安室に安置。

本隊17時50分帰着。B台地の西斜面寄りの『トオン』の大木の樹元附近に遺体
在り、根が絡んでいるのも在る由。西斜面にて3体並列（自然体）の遺体出土、又
同列附近にて2体並列の遺体発見、右側の遺体の左腕が左側遺体の首下に在り、
右側の人が左側の人を抱き留めている様子の姿だったとの、学生さんが云つて
居た。

今日の収容遺体は 17 体。

★10月31日－全員8時15分出発、B台地10時30分到着。発掘作業開始台地中心より奥東側
（薄暗く湿気多い場所）を各所掘るも遺体出土せず。村長に問いかけたら此の地
の北側の台地も同じ様な場所の由、早速足場を作り台地に登るとB地より狭い
が同様な地形、発掘作業を行うとB地同様西側に面した場所から遺体出土、私
東側の薄暗い地域附近を発掘するも、兵隊の持ち物出土するも遺体は不出。北
側は断崖の地、村長に尋ねたら此の附近は洪水道で遺体は川に流されて無いの
では無いかとの事、本日の作業台地を A地 とする。台地の西側の縁に座して
みると、B地同様、眼下に細いボイキン川が流れ、対岸の稜線上の樹々の葉が
陽光で緑が輝き、其の上に青い空が見えます。心和む景色です。行き倒れの戦
友達が最後の場所を選んだ気持ちが解るような気がします。何とも哀れです。
万葉集の挽歌の一節に、上宮聖徳太子が竹原井に行かれる途中、竜田山の山中
にて行き倒れの旅人を見て悲しんで作られた歌一首を想いだします。

『家にあらば妹が手まかむ 草枕旅に臥せるこの旅人あわれ』

家に居たならば妻の手を枕にするであろうに、旅先で倒れて居る旅人よ哀れた。
帰途ボイキン部落の慰霊碑に参拝、17時30分帰着。今日の収容遺体は16 体。

★11月1日－全員8時10分出発、C地に9時50分着、荷物を置きA台地にて遺体発掘作業。
川面西側より遺体4体出土するも、東部山側からは1体も出土せず、C地1体出土。
14時0分、C地に帰り、荷物、道具類を整理し、未発見の戦友に別れを告げ帰途
に付く、ボイキン小学校近くの民家より遺骨4体受取り帰着16時0分

本日で現地遺骨収集作業終了。 今日の収容遺体は 13 体。

夕食時本日迄の遺骨収集結果の報告有り。

第1班 ボイキン A地－19体（検体10体）。B地－30体（検体28体）。

C地－25体（検体20体）。其の他 8体（検体 0体）。

第2班 ココダ方面 40体（検体36体） 合計 122体（検体94体）。

★11月2日－本日は焼骨式

朝、左焼却台に30の井桁を組む。住民より1体受領。合計 123体となる。

10時より焼骨式、全員集合、厚生省の青木氏の進行にて、拝礼、献花、火入れ式。
10時20分焼骨開始。14時0分 骨上げ式、15時0分 骨上げ終了。焼骨袋霊安室に
安置。日本大使館 山下大使、牧野書記官、PX-126便にてウェワク空港17時45分
到着。夜 山下大使と 会食。 今日の収容遺体は 1 体。

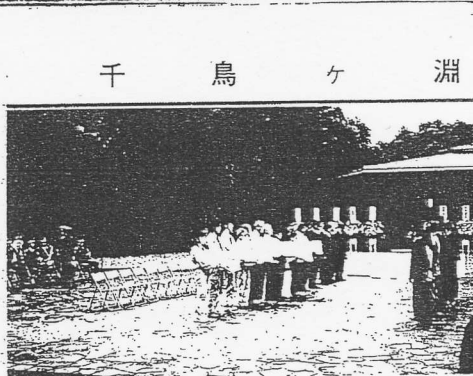
★11月3日ー 本日はウェワク平和公園の慰霊碑前にて追悼式（厚生省青木氏進行係）
追悼式 10時0分 ポートモレスビー日本大使館 山下全権大使臨席の下。
慰霊碑の前に祭壇を設け、代表遺骨箱一箱を置く。国旗を掲げ、花輪を飾り、
供養物を並べ、全員祭壇前に整列して追悼式を行う。団長、山下全権大使、日本
遺族会、東部ニューギニア戦友会、JYMAの各代表、追悼文を奉読後、参列者一同
献花して式を終わる。11時0分 終了。 夜 山下大使の夕食会に出席。

★11月4日 ～ 6日 今次収骨 123 体を捧持して、全員無事 帰国の途に着く。

★11月7日 ー 千鳥ヶ淵戦没者墓苑 遺骨引渡及び解団式
11時30分 捧持遺骨123体の遺骨箱10箱、厚生労働省職員に引渡す。
小澤一夫団長より遺骨収集団、解団の言葉有り、解散。

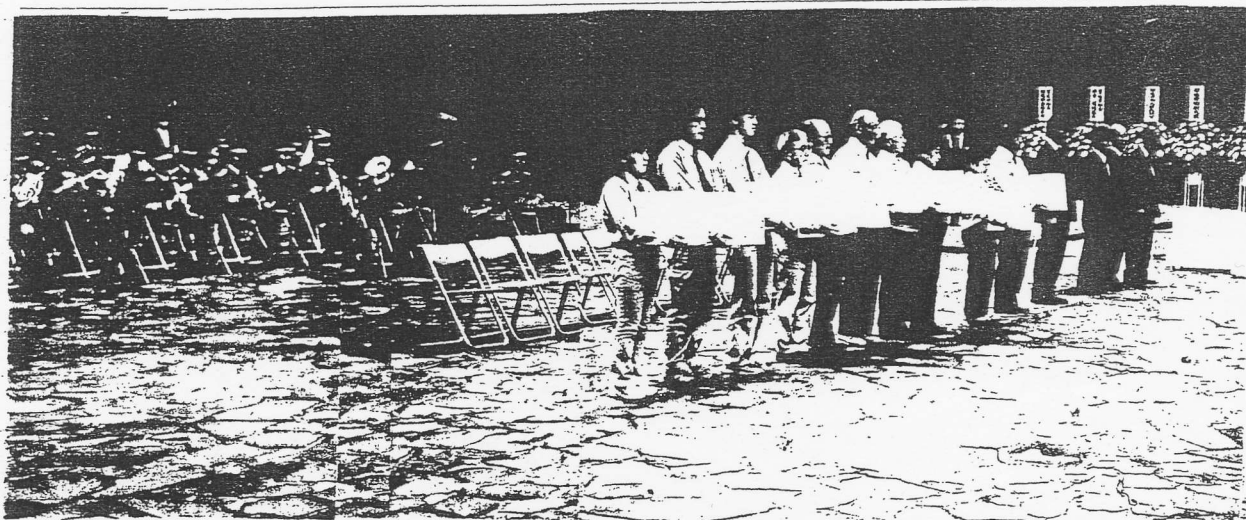
今も尚現地に眠る戦友のご冥福をお祈りしつつ、以上報告を終わります。 合掌。

席上、新島良夫厚生労働省官房援護
担当審議官は「バプアニューギニアは、
50年余り前とは自然環境が大きく変貌
しており、高温多湿の気候と鬱蒼とし
たジャングルの中、ご遺骨の引き渡し
に係わる現地住民との交渉や長い徒歩
移動を必要とされる場所での収集作業
など、派遣団の皆様方は大変な苦勞を
された」と挨拶された。
なお、東部ニューギニア戦没者遺骨
収集の実施状況（今回を含む）は、実
施回数18回、戦没者数12万7千6百人、
遺骨送還数4万9千3百73柱である



収集団に抱れて帰国したご遺骨

東部ニューギニアから
ご遺骨の帰国
東部ニューギニアで、18日間にあた
つて遺骨収集を行ってきた遺骨収集団
14名（団長、厚生労働省小澤一夫氏）
が帰国、収集したご遺骨123柱を収集団
から厚生労働省へ引き渡す儀式が、11
月7日（金）午前、当墓苑で行われた。



平成15年10月21日より11月 7日迄のババ、ニューギニアにおける政府主催、遺骨収集に参加させて頂くにあたり、暖かいお力添えを頂きまして本当に有り難うございました。

お陰様で 森ノダで受領した 40 柱のご遺骨、ツル地区 1柱、ニューウヰクホテルで 4柱、グレイ 4 柱を受領しました、それに今回の収骨団員が自分たちの手で直接発掘収集した 74 柱を加えまして、123 柱の英霊を祖国日本に奉持することが出来ました。

本当に長い間お待たせしたことを、彼の地で父親を亡くした娘として、申し訳ない気持ちと、ようやく帰国された祖国で、ゆっくりお眠り下さいと心に念じる毎日です。

平成14年 8月19日、慰霊巡拝で 森ノダ地区を訪れたとき、当地遺族の私と一緒にした豊川市の遺族加藤ひで子さんを、不思議な力で埋葬地まで導かれ遺骨を発見してから 1 年2ヵ月、壮年と思われる総入れ歯のご遺骨、また若い兵士と思われる綺麗な歯並のご遺骨のことを、一日たりとも忘れることが出来ませんでした。

また、私たち二人の老女遺族のため、少し遠廻りしながら比較的段差の少ない道を、豆腐でも運ぶように丁寧に連れて行って下さった心優しい住民の方々、地主の ビーターさん、そして現地 ドライバーで ニューギニア 政府の役人でもある サライ、アソソさん達には感謝の気持ちでいっぱいです。

サライ、アソソさんとは、この 1年2ヵ月の間、14年11月遺児の慰霊巡拝のときは、ホテルまで ファミリーで面会に来てもらったり、電話や ファックスでの交流が続いておりました。今回も遺骨収集の最終日には ファミリー8人で、ニューウヰクホテルまで プレゼントを持って会いにきてくれました。本当に人と人との心の交流がどんなに大切なものか、と言うことを、この父の眠る ニューギニア の地で、私のことを友人とってくれている ファミリーがいることを心より嬉しく思いました。

1 年2ヵ月前の時は、日本人が私と加藤さんだけでしたが今回は、森ノダの遺児及び戦友会員、JYMAの若者、厚労省職員、現地の ガバをして下さった富田さんを含め15名の日本人が、お迎えに行くことができ感無量でした。収骨団は、小沢団長を中心に全員が一柱でも多くのご遺骨を、祖国にお連れしようと一致団結した作業でした。

戦後、空っぽの骨箱を受け取った遺族の一人である私は、純情でない神経をこの 1 年2ヵ月持ち続けてきた故か、今のところ身体も心もぼろぼろになって居ります。

空しいという言葉がぴったりの遺骨収集でしたが、たとえこの度の 1 2 3 柱の内に私の父が入っていないとしましても、父の顔も覚えていない娘として、してあげられることは、精一杯させてもらった我が身自身を褒めてやりたい気持ちでいっぱいです。霊位になられた父もきっと喜んでいてくれると思います。

それにしましても、ご遺骨発見より1年2ヵ月、現地調査より11か月という長い期間
諸英霊たちを、お待たせした事になりました、この間いろいろな事情があることと
思いますが、厚生労働省にお願い致しますーこれからは調査がすんだ時点より一日も
早く、60年もお待たせした兵隊さん達を祖国日本にお連れできるように、計らって下
さいます様に心よりお願い申し上げます。

今後も一柱でも多くの兵隊さん達のご遺骨を祖国にお迎えし、でき得ることなら
家族の眠る家郷の墳墓に埋葬されることを強く願っております。

夢の中のようなこの1年2ヵ月でしたが、今は両親のいなくなる四人の子供の行く末
を案じながら、昭和25年に父の許に旅立った母のことを、考えているところでござい
ます。

また、大切な息子を二人も戦地で亡くした祖母のことも、いま考えてみますと、
その時、母は私の子供の年齢に近く、祖母は、孫である現在の私の年齢に近い、と言
うことでございます。

私達のように戦争で傷付く人間がこれ以上増えないように、この世界中に戦争の無
い平和な日があることを念じている毎日でございます。

この度のことでご尽力下さった総ての方々に感謝致しております。

厚生労働省、戦友会、日本遺族会、JYMA、そして11月7日遺骨引渡式に五十余人
の方々が、出迎えして下さった東京都遺族会の皆様、ご高齢にも拘らず千鳥ガ淵墓苑
まで、お迎えにお越し下さいました戦友の皆様、本当にありがとうございました。

現在の心境を記してみましたがお目触りでなければお目通し下さいますようお願い
申し上げます。

平成15年11月 醜記



焼骨式 収骨団遺児達。

『日本遺族会です…東部 ニューギニア 遺骨収集のメンバーになりました！』と電話連絡があったのは9月8日のことだった。『はい、有難うございます、参加させていただきます』と、私は即答した。10月21日から11月7日迄の期間である。日本遺族会から東部 ニューギニア の遺骨収集に、女性の派遣は初めての事、その重大な使命を果たすためには、期間中は体調に充分注意し、怪我などしないように、と固く心に誓った。

収集現場へは、村から車で約1時間、車を降てから作業用の装備品等とともに戦友と女性二人は ランクル に乗換え（他の人は徒歩）、警備の青年が車の進行し易いように石など並べ先導しながら、道なき道を30分ほど登る、ゴロゴロした石の表面は白く私には兵隊さんの顔に見え 思わず眼を閉じ「日本からのお迎えが遅くなって御免なさい」と、心の中でつぶやいた。4~5分 程の崖になっている土の中からは兵隊さん達が「ようやく来てくれたかー、」と囁いているようにも感じられた。

ランクルを下車した場所から いよいよ徒歩（ここから先、車は不可能）鬱蒼とした樹木の中、川を右に左に渡ったり、急な斜面を同行の人の手を借りながら登る。

（収集現場へ通った日々、皆様には親切にして頂き心から感謝しています）

団長さんの収集作業開始の笛の音と同時に、昨年12月の試掘調査時に標をした地点を発掘する、スコップの先を何故か私はドギドギしながら見つめていた。

泥にまみれた ご遺骨を、始めて眼にし手にした時は思考力が失せ、ただ頭の中が真っ白になった。六十年近くもこの様な ジャングルの中で、誰の眼にも触れることなくじっと眠り続けていた英霊たち、一体何故にこの様な事態に？。

ニューギニアは 昭和18年以降、武器による軍隊同志の戦いでなく、飢餓とマラリアなどの病魔との戦いであったと言われる。「戦後処理は終わったー、」と言うが、この現実は何なのか？。

いま、収集団の全員が現地の人々の協力を得、1人でも多く日本に帰って頂きたいと40度を越える猛暑と、密林特有の湿気の中で頑張っているこの現状を、為政関係者の方々に是非とも見て頂きたい、等々。様々なことが頭の中を駆け巡ったが、不思議に涙は出なかった。

帰路の車内では白い袋に収められたご遺骨に、遺族の縁に繋がるいとおしさを感じこの身の温もりを伝えたいものと思い、しっかりと胸に抱きしめると、ご遺骨からも温かさが微かに感じられ、夢を見ているような現実を体験しました。

このような日々の収骨作業も予定の日程を終了し、123柱（受領分含む）の英霊を胸に11月6日、九段会館の安置室へ、翌7日は大勢の出迎えを受け、千鳥ガ淵墓苑で厚労省への引渡し式があり、派遣団の解団式も終え18日間の全日程が終了した。

はるか南の国 パプ ニューギニア の人々よ、どうぞいつまでも明るい笑顔を忘れない様に
あなた達の大きな黒い瞳の親しげな笑は、私の心の中にいつ迄も焼き付いて残ってい
ます。

そして最後に、厚労省の方々、戦友会、JYMAの若い人達、日本遺族会の皆様、
加えて18日間の長期に亘り私を送り出してくれた高令の母と家族に心の底から感謝し
お礼を申し上げます

本当にありがとうございました。

15年12月 栗野 記

政府派遣 東部ニューギニア遺骨収集団参加報告

20師団朝2064部隊 森本 利雄 遺児 森本 浩吉

日本遺族通信により、平成15年度遺骨収集事業実施地域に東部ニューギニアが派遣予
定地域であることを知り、4月早々に神奈川県遺族会を通じて参加事前登録票を日本遺族
会に提出してから、日々念願の叶うことを祈る心境でありました。9月8日に日本遺族会
より参加決定の電話連絡を貰った時には、満願に思わず涙で返事の声も詰まる程でした。

今回の、東部ニューギニアに於ける遺骨収集が実施される主たる場所が、父の終焉の地
でもあるボイキン地区であることから是非とも参加したいと切望しておりました。

東部ニューギニアの戦闘は、圧倒的な物資の補給・兵器・装備の充実を誇る米豪連合軍
に対し、制空・制海権を奪われた日本軍は戦うに弾薬の補給なく、生きるに食糧の支給も
途絶え、飢渴地獄に苛まれ、悪疫罹患蔓延の中、高峰連なる峻険な山々を越え、無数の大
小河川を渡河し、大湿地沼地の泥濘地帯を徒渉し、高温多湿の熱帯雨林ジャングルを彷徨
する凄惨苛烈な戦場となり、生きては帰れぬニューギニアとまで言われたところで、妻子
・父母・家族・恋人等、それぞれの愛する人に想いを馳せながら、祖国の安穏と繁栄を願
いつつ、「死の島ニューギニア」の各地で13万近くの将兵が散華されたと言われます。

父は、私の満1歳の誕生日を祝って間もなく、妊婦の母の身体を気遣いながら（妹・昭
和18年4月誕生）南方方面（東部ニューギニア）へと出征したそうである。終戦となり
京城より父の本籍地である三重県へ引揚げ、父の生還を信じひたすら待つ母の許に、昭和
21年6月、父の死亡告知書「昭和19年12月3日東部ニューギニアボイキン地区の戦
闘にて戦死」との公報第11,138號の紙一枚の通知が届きます。享年30歳でした。

まだ頑是無い幼子2人を抱えた、その時の母の胸中を慮るに胸に余るものがありますが
、母は苦労話など当然として多くを語ることもなく、平成13年8月米寿を過ぎ間もなく
逝き、黄泉の世で父と再会し短かった結婚生活のやり直しをしていると思っております。

東部ニューギニア地域への遺骨収集団派遣は、今回で18回目（過去17回実施され、47,250柱の収骨実績）であり、派遣団員は14名（厚労省 4名・日本遺族会 6名・戦友会 1名・JYMA 3名 = 男性11名、女性3名 団長 厚労省社会援護局援護企画課外事室室長補佐 小澤 一夫氏）、期間は10月21日～11月7日の18日間です。

日本遺族会の代表6名は全員が遺児（ボイキン地区戦死者の遺児4名）です。

10月21日、九段会館にて日本遺族会代表の結団式・靖国神社に参拝、成田空港にて参加者全員の結団式、厚労省から遺骨収集期間中の種々の説明を受けて出発しました。

父達は、敵襲を警戒しつつ船倉でのつらく長い船旅で戦地へと向ったのであろうに、我々はケアンズを経由したものの約10時間程でポートモレスビーへ到着です。

22日、日本大使館表敬訪問等の諸行事を終え1泊、翌23日ウエワクへ飛び、期間中ベースキャンプとなるニューウエワクホテルに入り、24日は地元関係先との調整と準備、ウエワク戦没者慰霊碑と洋展台の慰霊碑参拝を行い、翌25日からいよいよ作業開始。

遺骨収集作業現場へは毎日弁当を持参して、宿舎からはトラックの荷台に乗り車両が入れる限界迄約1時間。そこからは、かつて日本軍が山南地区への往来道としていた、鬱蒼と繁茂した木々の中の細い道（現在は現地住民の生活道路）を、ボイキン川を左右に渡り、急斜面を這うように上ったり下ったりしながら約1時間の徒歩。現場到着までは合計2時間です。ふと、写真で知る父が先導して歩いている様な錯覚を覚えた日もありました。

作業は、現地住民による現場の下草刈り、倒木の片付けをしてから、昨年12月厚労省が現地調査の際に試掘して、ご遺骨を確認した場所として目印を残した所から掘削収骨を行い、続いてその近くへと現地住民に指示して展開掘削してゆきます。近くに寄り添う如くに、折り重なる如くに、凭れていたであろう木が太木に成長しその根の間にと発見されます。ご遺骨の一部が出たところで、頭の方や全体の向きがどちらかを確認して慎重に掘り進めてゆき、認識票・印鑑・万年筆に刻銘はないか等、ご遺骨周辺の遺留品も併せて捜します。今回は残念ながら、個人を断定出来るものは出土せず、各個体毎に番号を付けた袋に収骨し、歯を後日のDNA鑑定用に同番号の小袋に検体として残します。

毎日、作業開始時はご一体でも多く収骨し祖国へとお連れしなければと誓い、作業終了時には、「ここに、まだいるぞ!!」と、近くで呼んでおられるのではないかと自問する日々でした。発掘されるご遺体と向き合う毎に、祖国を遠く離れた南の島の山中で、力尽き人知れず倒れ、野晒しのままに60年の歳月を経て、土中に埋もれ朽ち果てんとしておられた英霊の、その無念さを想い偲び、辛く悲しく虚しさが募るばかりで、「何故に!! なの為に」と、怒りさえ覚えることもあり、ひたすら作業に没頭することだけに努めました。

遺骨収集作業期間は、天候に恵まれ（夜中にスコール有）、厚労省及び大使館の綿密な手配と州政府・警察・現地住民の協力もあって、ボイキン地区74柱・他地区40柱・住民からの保管提供9柱・合計123柱（検体採取96柱）の収骨をすることが出来ました。

11月2日、宿舎にて焼骨式、茶屋に伏し骨上げをして新しい袋へと納骨しました。

11月3日はウエワクの日本政府建_{たて}立の戦没者慰霊碑にて、在パプアニューギニア日本

大使館から山下大使と牧野書記官も出席しての追悼式が行われました。

11月4日、12泊した日本人 川畑 静氏経営のニューウエワクホテルを発ち、首都ポートモレスビーに1泊、翌5日はオーストラリアケアンズに1泊。

11月6日ケアンズを発ち、123柱のご遺骨を60年振りに祖国日本へとお連れし、成田空港へ19:00無事到着。ご遺骨を九段会館へと仮安置致しました。

11月7日、九段会館からご遺骨を捧持して、千鳥ヶ淵墓苑に多数の関係ご遺族がお迎えされる中、厚労省へのご遺骨引渡式が行われ、厚労省の霊安室へと安置されました。

東部ニューギニア各地には、祖国の興亡に殉じ尊い命を捧げられた、多くの英霊のご遺骨が祖国へ帰れる日を待っておられます。戦場の詳細を知る生還戦友の方々も八十路を越されて、鬼籍に入られたり病臥に伏せておられたりされ、現地でも、当時を知る世代から次世代へと世代交替により、情報の口伝えにも差異が生じたり、風化され情報量が乏しくなり正確さを欠くことが心配されます。聞き取りや現地からの小さな僅かな情報からも迅速に現地調査等を綿密に進められ、遺骨収集事業の継続と充実を願うものであります。

東部ニューギニア戦没者の遺児達は、父の顔さえ知らない者も多く、殆どが還暦を越える年齢となり、慰霊友好親善・遺骨収集事業等への参加希望が増えているそうです。一人でも多く機会が与えられ、希望が叶えられます様、戦友会からも派遣人数と訪問回数の増加、拡大等について、厚労省、日本遺族会へ要望していただきたいと思ひます。

私達遺児の使命として、東部ニューギニアとその周辺海域を含め、太平洋戦争の戦場となった各地に於いて散華された240万余英霊の無念の死こそが、祖国復興の礎となり、その尊い犠牲と残された遺族の深い悲しみと辛酸苦労のうえに、現在の日本の平和と繁栄があることを銘記して再び戦争への道を辿らぬ様、悲しい歴史が繰り返されぬ様に、恒久平和の実現のために、子や孫の世代へと語り継いでいくことを誓うものであります。

終わりに、厚労省・日本遺族会・東部ニューギニア戦友会・JYMAの青年達・ボイキンの住民と子供達・その他関係の方々の多大なご支援により任務を遂行することが出来ました。ここに厚くお礼申し上げ報告と致します。合掌。 (平成15年12月20日記)



ウエワク墓苑追悼式の収骨団遺児達 H16.11.3.



感謝状

東部ニューキニア戦友会殿

貴会は政府が実施する戦没者
遺骨収集事業に対し多年にわたり
積極的に参加協力されよつて
本事業は多大の成果をあげる
ことができました

その御協力に対しここに深甚なる
謝意を表します

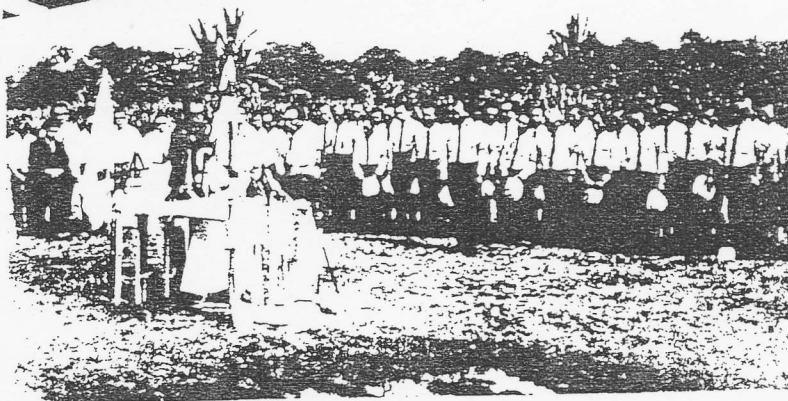
平成七年十月三十一日

厚生大臣 木村井忠良



戦友遺骨収集団結団式（靖国社頭）

s-44, 10.



収骨団追悼式（ラエ、パプア飛行場跡で）

s-44, 10.

A black and white photograph of the USS Third Fleet (AGC-11) sailing on the water. The ship is a large aircraft carrier with a prominent superstructure, including a large island and several funnels. The name 'THIRD FLEET' is visible on the hull.

元日本兵四人、あす上陸

[illegible][illegible]

昨夜鳥羽沖に飯泊

(上) 生残りの日六、右から島田、入重樫、下窪、小島の四氏（大成丸に同乗して乗船）
(下) けさ島羽沖を出航する大成丸

[illegible]

手手集出外八萬圓三萬さんごうのついでに、
 一萬圓のラッパシヤを買致した。十三
 三萬かりの組屋です。うかにうけたつて費用を
 一萬圓きびで、海軍軍艦に十二萬圓の積を二
 萬に増し、海軍の砲臺を大々つてつた。こゝに
 午前八時大砲は第一發發射した。……

四人が持帰す（鳥羽苑）

九遺骨氏名 大國史

帰国した成田元吉長らは九人の選

情を打ち明けたが、その旨は知ら

の通り。(カツコ内にも、

(五、四、三、二、一)

▷ 氏文(二) 二二 附所

六日 大晴 市廛區區 無恙

三、英荷二國之關係（英大）

二〇、文天祥(忠貞) 十五、韓世忠

THE UNIVERSITY OF CHICAGO

一、

市大町(小町)三(一)

民國二十一年五月六日 六會誌

五、(五) 發展中國家 (Developing Countries)

[illegible]

1951年11月11日

鳴鳳大馬路名三三二二

一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百。

五、(五)

子之曰：自公室始，

[Handwritten signature]

1